

図書室だより

11月号



平成 28 年 11 月 1 日
春日部市立東中学校

今年もいよいよ残り二か月となりました。木の葉が色づき、風もひんやり冷たく、街を歩く人もセーターが似合う季節になりました。これからますます寒くなりますね。さて、11 月は旧暦（明治時代まで使われていた昔の暦）で「霜月」といいます。寒い朝には、透きとおった霜がみられるかもしれませんね。また、英名では（November）といえます。「9 番目の月」という意味です。なぜ 11 月なのに「9 番目の月」なのでしょう？それは、紀元前 46 年まで使われていたローマ暦が 3 月始まりだったからなのです。3 月から数えて「9 番目の月」が 11 月というわけです。不思議ですね。



《仕事について考えてみよう》



11 月 23 日は、「勤労感謝の日」です。勤労（仕事をする）を大切に、生産を祝い、国民がお互いに感謝し合う日、自分が働けることを喜ぶ日として、1948 年（昭和 23 年）に制定されました。昔、この日は、新嘗祭（にいなめさい）と呼ばれ、その年に収穫した新米を神様に供えて、実りを祝う行事が行われていました。

参考 ポプラディアより

{読んでみよう 仕事の本}

- * **新 13 歳のハローワーク** 村上 龍 著 国語が好き、社会が好き、理科が好き、体育が好き・・・好きな教科の扉を開けると、胸がときめく職業図鑑が広がる。自分に向く職業がきっとあると信じて、自分の仕事、人生、未来のことを考えてみよう。
- * **職場体験完全ガイド** 全 6 巻 仕事の現場に完全密着、取材にもとづいた臨場感と説得力にあふれる職業ガイドの本。いろいろな仕事の現場の様子がわかりやすく載っています。まだまだ私たちの知らない仕事がたくさんあります。生きがいとしての仕事を見つけたいですね。
- * **学校にいけない働く子どもたち** 全 4 巻 世界中には学校に行きたくても行けないで、働いている子供たちがたくさんいます。一生懸命、家族のために、自分自身のために、働いている子供たちがいっぱい載っています。勉強の好きでないその君、学べる幸せが実感できる本です。
- * **5 教科が仕事につながる！ぼくとわたしの職業ガイド** 主要 5 教科・別巻からなる本で、学習が将来職業でどのように役立っているのかを紹介している本。あこがれの職業から、学習のモチベーションを高めることのできる本。学習の力を活かして働いている人を紹介しています。
- * **なるには Books** 第一線で活躍する人たちの生きた仕事現場を取材するほか、歴史や全体像、将来性も含めながらわかりやすく解説してあります。君が、なるための適性や心構え、必要な資格や、問い合わせ先なども詳しく紹介してあり働くことが身近に感じられる本です。
- * **中学生・高校生のための仕事ガイド** 中学生・高校生を対象に、職業とその仕事内容をわかりやすく紹介してあることと、仕事につくための方法や必要な資格、給与や勤務条件などをコンパクトに解説してあることが特徴の本。**なるには Books** とあわせて読むと最強の力になります。



《おすすめの本》



- * 『ぼくの命は言葉とともにある』 福島 智 著 3歳で右目を、9歳で左目を失明。18歳で失聴する。全盲ろう（目が見えず、耳が聞こえない）となる。「石のように眠り、パンのように起きる。」（石のようにストーンと寝て、パンのようにふわっと起きる。）それが幸せなんだ。ともかく生きている、何があっても生きていれば、それだけで人生のテストで80点から90点を取れている。生きていけるといいね。心が軽くなり、平凡な日常に幸せを感じる一冊です。
- * 『幸せは見えないけれど』 グエン・クーパー 著 盲目の子猫ホームーに教わった恋と人生、話題の猫エッセイです。子猫は感染症にかかり瀕死の重体で、病院に連れてこられ、飼い主から安楽死を希望される。しかし、獣医師は盲目となった子猫の感染症を完治させ里親を探す。条件の厳しい盲目の子猫を引き取り里親となったグエン。目の見えないホームーは、臆病ではなく勇敢で、誰とも仲良くできる愛情豊かな子猫となる。子猫のかわいらしさに癒されます。
- * 『ぶた にく』 大西 暢夫 著 豚の写真絵本集—お店でトレーに入って売られている食肉は、当然のことながら生きて動いていた豚の体の一部です。生まれたての子豚（手のひらサイズ）が成長し、出荷されるまでを描いた写真絵本ですが、なんだか優しい気持ちになれる奥が深い本です。私たちは子豚のかけがえのない命をもらっていることを忘れないでいたいです。
- * 『四十九日のレシピ』 伊吹 有喜 著 熱田家の母・乙美が亡くなった。生きる気力を失った父・良平のもとを訪れたのは、乙美が生前作っていた、ある「レシピ」の存在を良平に伝えにきた井本さん。そこに、東京で生活を送っていた娘、百合子が離婚して疲れ果てた様子で帰ってきた。離れてしまった家族を再び呼び集め、あたたかく包んでくれる感動の物語です。
- * 『「原因」と「結果」の法則』 英国が生んだ謎の哲学者、ジェームス・アレンの本です。訳者である私がこの本をクリスマス・プレゼントとして手渡されたときに、彼が言った「何かあって落ち込んだりしたときに読んでごらんください。人生なんて、とても単純なものなのよね。」という言葉が忘れられません。この本は、世界中の無数の人々を勇気づけてきました。
- * 『だっころりん』 粘土でできたカラフルでユニークな表情のキャラクターたちが、様々な場所や状態でだっこしている場面が載っています。「だっこするしあわせ、だっこされるしあわせ」が感じられる絵本です。この本を読んで、幸せなひと時を過ごしてみませんか。
- * 『ちょっとだけ』 これまで100%愛情を注がれていたなっちゃん。なっちゃんの家には、赤ちゃんが来ました。途端にママにかまってもらう時間が少なくなってしまうました。お姉ちゃんとして頑張ってみよう、けどやっぱりちょっと悲しい……。なっちゃんの姿にホロリとききます。
- * 『おこだでませんように』 小学校の課題図書になった本です。いつもお母さんや先生に怒られてばかりのやんちゃな男の子の話です。子どもなりに一生懸命、悩んで、考えて行動している素直な男の子の気持ちを知ることができます。最後はきっと誰もが涙してしまいます。
- * 『ママがおばけになっちゃった』 ママは、車にぶつかりお化けになりました。突然お化けになったママ。一番心配なのは、4歳になる息子のかんたろうのことです。夜12時にかんたろうの部屋にくるママ。最初信じなかったが、脇腹のお肉で空を飛ぶママをみて、「デブママだ。」親がいるのが当たり前のことではなく、感謝することに気付かせてくれる本です。

